

南房総市千倉町・海まで徒歩1分

“ACTUS(アクタス)監修”地域と家族をつなぐ宿 「ちくらつなぐホテル」 8月31日(土)オープン



株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツは、「ちくらつなぐホテル」を、2019年8月31日(土)にオープンしました。「ちくらつなぐホテル」は、東京学芸大学附属世田谷小学校の保養所「青山荘(せいざんそう)」をコンバージョンした宿泊施設であり、近年、高齢化に伴う過疎化が進行する南房総市千倉町に、一石を投じる地方創生への取り組みとなります。

千倉町に再び子供たちの笑い声と呼び戻すことをミッションとし、地域と宿泊者、そして過去と現在、未来をつなげていけるような宿泊施設の運営に取り組んでいきます。

ブルー・スカイ・アソシエイツは、ビジネスを通じて東京と地方の架け橋になることを目指しており、「ちくらつなぐホテル」が地域に根付いたハブとなることで、人やモノの回遊を促し、地域の活性化に寄与・貢献していきたいと考えています。

■コンセプトは“町を遊び尽くす、家族の学び舎”

豊かな里山、輝く海原、鮮やかな花畑。千倉町には、都心では味わう事のできない豊かな自然が溢れています。そんな千倉の町で、長い年月の間、子供たちの笑顔を見守ってきた「青山荘(せいざんそう)」という学び舎がありました。時は経ち、2019年。これからも、子供たちへ笑顔を届けたいという願いを胸に。自ら作りたくなる、楽しみたくなる、考えたくなる。そんな“勉強ではない、活きた学び”がある宿として、青山荘は「ちくらつなぐホテル」として生まれ変わりました。美しき千倉の町の暮らし、カルチャー、そこで暮らす人々に触れながら。様々な実体験を通じ、この地域ならではのたくさんの思い出を作っていただきたいと思います。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ

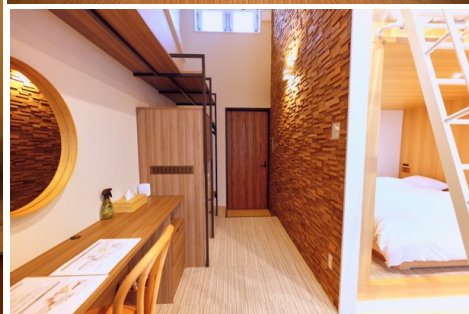
鈴木 TEL:03-6277-8217

Mail:ksuzuki@bluesky-as.com

■アクタスをデザイン監修及びアドバイザーに

ACTUS

改修工事及びインテリアデザインについては、この取り組みに強く共感をいただいたことから、「ACTUS」をはじめとする質の高いオリジナルインテリアブランドを展開する「ライフスタイルカンパニー」株式会社アクタスに、デザイン監修及びアドバイザーとして全面的な協力をいただきながら開業に向けた準備を進めています。ちくらつなぐホテルの随所にアクタス社の世界観を感じていただけます。



客室

客室は「個室(4名様×8室)」「大部屋(14名様×2室)」「テント(4名様×5室)」の3タイプをご用意しております。

【個室】木目調をベースとした、あたたかみのあるお部屋。家具や内装からもアクタスの世界観を感じて頂ける、こだわりの詰まった空間となっています。

【大部屋】どこかに昔懐かしい雰囲気を残す畳の大部屋は、企業やサークル合宿などの団体様利用におすすめです。布団敷きのため、ベッドではまだ不安な小さなお子様をお持ちのご家族グループにもおすすめです。

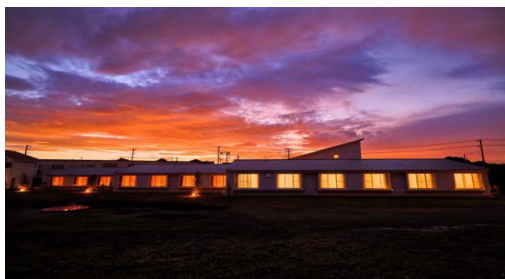
【テント】海の近くで、自然を五感で感じながら宿泊したい。そんな願いが叶うのが、テント泊です。海からやってくる潮風、磯の香り。広々とひろがる空の色。都会よりもはっきりと見える星のきらめき。身近に自然を感じながらも、快適にご宿泊いただけるスペースをご用意しております。また、一部のテントでは、愛犬と一緒にご宿泊いただけます。

お好みの客室で、ちくらつなぐホテルならではの素敵な時間をお過ごしください。

大浴場・洗面室

旅の疲れを癒す大浴場は、ゆったりと広々とした空間で、旅の疲れをリフレッシュしてくれます。隣接する洗面室は、寛ぎながらお支度をしていただけるよう、上質な空間設計となっております。





外観・エントランス

初めて訪れる人の誰もが目を惹かれるであろう印象的な三角屋根の外観は、ベースとなる青山荘の建物はそのままに、大規模な耐震補強とコンセプトに基づいた家具等を造作しております。ちくらつなぐホテルのブランドロゴも、この外観を反映しております。

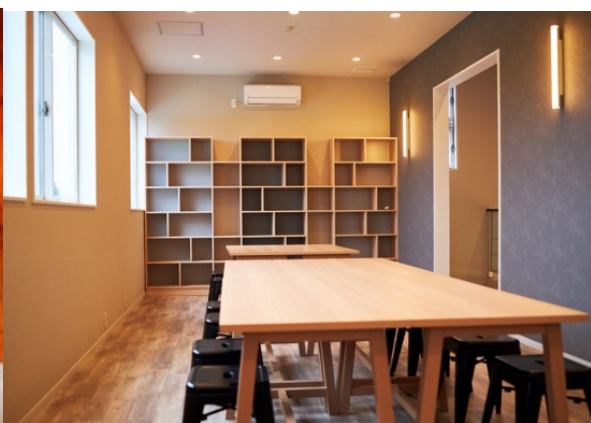
エントランスは、扉を開けると中庭からの風が心地よく吹抜けます。



せいざんカフェ

ちくらつなぐホテル内に併設された「せいざんカフェ」は、ご宿泊の方はもちろん、地元の方もご利用いただけるスペースです。みんなで囲める大きな丸テーブルは可動式になっており、小さく分割してつかうことも。せいざんカフェは、ちくらつなぐホテルの中心として、人々が集まる場所となっています。

せいざんカフェの2Fはアトリエスペースとして、窓から海が見える開放的な空間になっています。お絵かきや簡単な工作などで楽しんでいただけるため、雨の日でも安心です。PCを持ち込んでお仕事をされる方のために、電源も複数設置しております。



庭・テント区画

広い庭は、約10mの大きなタブの木をシンボルに、芝と様々な樹木に囲まれた憩いの場となります。庭の中央にはファイヤープレイスを設け、バーベキューなど、波の音を聞きながら贅沢な時間をお過ごしいただけます。

1日5組限定で、テント泊をお楽しみいただける区画もございます。一部のテントは犬同宿も可能ですので、愛犬との特別な時間をお過ごしいただけます。

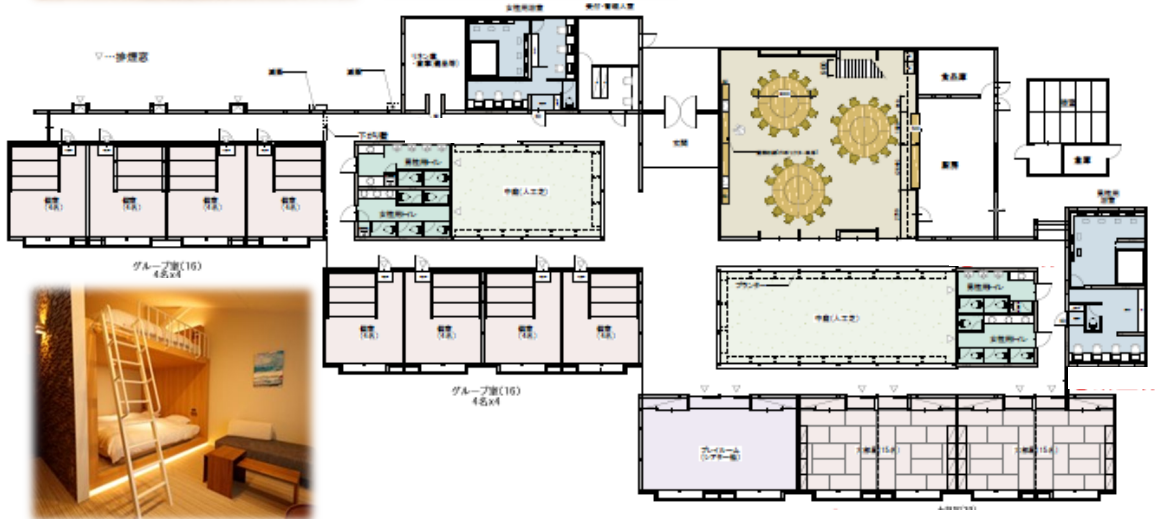
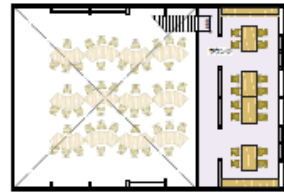


【ちくらつなぐホテル見取り図】

建物外観



建物内観



庭・テント区画



■子供たちの『生きる力』を育みたいという想いを込めて。-アクティビティ体験-

ただ「泊まる」だけではなく、千倉周辺の「町を遊ぶ」のが、ちくらつなぐホテル最大の強みです。実体験が何にも勝る思い出になると考え、例えば「イチゴ狩り」だけではなく、摘んだイチゴをホテルでジャムにしたり、地元の旬の食材を使った「ちくらレシピ」を考えてみます。土地そのものを味わえる体験プログラムを計画中です。その先に、子どもたちの「考える力」「自ら解決する力」を育むことができればと願っています。



ー計画中の体験プログラムについてー

町を体験できる、町の暮らしを感じることが出来る体験プログラムを年間を通して企画しています。プログラムを通じて地元の方とのコミュニケーションを図り、地域と宿泊者をつなぐきっかけになればと考えています。

開催時期：施設オープン後随時開催予定。開催情報は公式HP・SNSでご確認ください。

・農業体験

地域の農家の方々にご協力いただき、野菜や果物の収穫体験を実施する予定です。収穫した野菜や果実は持ち帰ることができ、気になった農作物は直接購入することも可能です。また、提携先農家と協業し、地域野菜を使ったオリジナルメニュー「ちくらカレー」等をカフェ棟にて調理し、参加者みんなで食べるといったプログラムも用意していきます。農家の方々とのコミュニケーションも含めて、農業体験を楽しんでいただきたいと思います。



・アクティビティ体験

南千倉などのサーフスポットには、太平洋のうねりを受けた本格的な波が一年を通して押しよせ、サーファー心がくすぐられます。外房は湘南他のエリアと比べると比較的海水温が高く、季節を問わずにサーフィンができるのも嬉しいところ。上級者の方だけでなく、初心者の方も安心して挑戦できるスポットが多いのも特徴です。2020年、東京オリンピックの正式種目となったサーフィン。千倉の海で、初めての親子サーフィンをサポートできるような取り組みも今後考えていきたいと思っています。

また、千倉町はタンDEM自転車(2人乗り自転車)の公道での走行が許可されているエリアです。タンDEM自転車で潮風や花の香りを感じていただく体験は、親子・チーム・クラスメイトとの絆を深めます。

・カルチャー体験

金曜の夜や雨の日は、ちくらつなぐホテル内で映画を楽しむ「ちくらシネマ」プログラムを企画しております。地元の方にも利用いただくことで、宿泊者と地元の方をつなぐ場を目指します。また、金曜の夜からご宿泊いただくことで、土曜の早朝からアクティブに町を遊び尽くしてほしいという想いも込めています。

ちくらつなぐホテル概要

【名 称】 ちくらつなぐホテル

【所 在 地】 〒295-0011

千葉県 南房総市千倉町北朝夷2967

【開 業 日】 2019年8月31日(土)

【客 室】 15室／全3タイプ

【収容人数】 80名（個室：4人×8室／大部屋：14人×2室／テント：4人×5室）

【食事】 ご宿泊のお客様：カフェ棟にて朝食・夕食の提供あり。

一般のご利用者様：追って開放予定。

【館内設備】 共同浴場／共同トイレ／中庭／多目的ルーム／無料Wi-Fi完備

【ホームページ】 <https://chikura.tsunaguhotel.jp>

【Instagram】 https://www.instagram.com/chikura_tsunagu_hotel/

【Facebook】 <https://www.facebook.com/chikuratsunaguhotel/>

【ご予約】 2019年8月1日(木)より承り中

【アクセス】

電車をご利用の場合：

東京駅より総武線成田行き34分（または成田空港より成田線久里浜行き41分）「千葉駅」下車後、内房線千倉行2時間「千倉駅」下車。ホテルまでタクシーで6分。

高速バスをご利用の場合：

羽田空港より、リムジンバス羽田空港線館山駅前行き「館山駅」下車後、内房線安房鴨川行き12分「千倉駅」下車。ホテルまでタクシーで6分。

東京駅より、高速バス南房総千倉行き2時間「千倉駅」下車。ホテルまでタクシーで6分。

車をご利用の場合：

（東京方面から）

湾岸線→川崎浮島ジャンクション
→東京湾アクアライン直進→館山
道→終点富浦出口左折→国道127号直進→南総文化ホール前
左折→国道128号外房黒潮ライン直進→稲交差点右斜め前に右折→国道187号直進→千倉橋脇交差点左折→約300m右手が「ちくらつなぐホテル」



※CGパースについては、あくまで現地のイメージパースとして作成したものであり、現況と異なる場合がございます。

千倉町の魅力

「春」には可憐に咲きみだれる花々を愛で、「夏」にはサーフィンや海水浴、磯遊びを楽しみ、「秋」には豊かな地元の食材を堪能し、「冬」は温暖でありながらも空気が澄んでいるので、冬の星座を眺める。1年を通して豊かな自然を楽しめるのが、千倉の魅力です。



水がきれいなことには定評があり、太平洋のうねりを受けた波は少しワイルド。サーファー心をくすぐる良い波が一年を通して押しよせるため、サーフィンの選手権大会の会場としても選ばれています。また、波がおだやかな海水浴場もあり、小さなお子様連れのご家族にも安心。親子で夢中になりながら、水遊びや磯遊びを楽しむことができます。昔から鯨、真鯛やアジ、サザエやアワビといった海の幸に恵まれています。山の幸も豊かで、イチゴやびわ、メロンといった果物、そら豆や落花生などの農作物が特産品です。ポピーやキンギョソウをはじめとした花々も有名です。



食とのかかわりが深い千倉には、全国で唯一、料理の祖神である「高倍神（たかべかみ）」をまつ「高家神社（たかべじんじゃ）」があり、昔から料理関係者や味噌・醤油醸造者からの信仰を集めてきました。千倉の地を訪れたら、まずは高家神社に参拝し、食の恵みに感謝してから地元グルメを味わうと、おいしさも格別です。アジやイワシに生姜や味噌を加えてたたきにした「なめろう」、なめろうを焼いた「さんが焼き」、「ウニソースパスタ」、「さざえかき揚げそば」など、ここでしか味わえないグルメも千倉の楽しみの一つです。

他にも、2つの道の駅「潮風王国」と「ローズマリー公園」や、房総半島最南端の野島埼灯台、船橋（ブリッジ）に登れる漁船のレプリカ、磯遊びができる「千田海岸」などがあり、一日中、気の向くままに、千倉の景色と南房総の食を満喫できる遊び場に溢れています。

千倉町周辺マップ



①野島埼灯台



ちくらつなぐホテルから車で約20分。「白鳥の灯台」とも呼ばれ、日本で2番目に古い美しい灯台です。最南端の夕日スポットでも有名です。

②白間津のお花畑



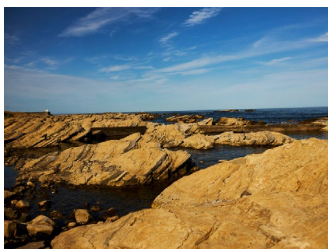
ちくらつなぐホテルから車で約10分。1月から3月にかけて、ポピー、キンセンカ、ストックなどの花が咲き揃い、花摘みが楽しめます。写真撮影にもおすすめのスポットです。

③道の駅ちくら潮風王国



ちくらつなぐホテルから車で約9分。ふれあい広場と千倉黒潮物産センターのある潮風王国のほか、芝生広場、じゃぶじゃぶ池、漁船を型どった展望などの公園施設があります。

④屏風岩



ちくらつなぐホテルから車で約5分。約1.3kmにわたって屏風を立てたように続いている奇岩群です。

⑤ちくら漁港朝市



ちくらつなぐホテルから車で約2分。房州海老、サザエ、アワビなどの魚介類や地元の新鮮野菜や特産品を堪能できます。

⑥道の駅ローズマリー公園



ちくらつなぐホテルから車で約8分。ローズマリーをはじめ各種ハーブや季節の花が年間を通して咲いています。

青山荘の歩み



(写真提供：青山附属同窓会)

青山荘は、1929年（昭和4年）に東京学芸大学附属世田谷小学校の臨海学校・学校行事施設として設立。千倉町の小学校の旧校舎から無償で提供いただいた資材を用いて建設するなど、町との関わりが深かったため、竣工時に東京学芸大学附属世田谷小学校の生徒たちが千倉駅に着くと、駅前に千倉町の小学生たちのアーチがたち、一緒に青山荘で交流を深めたそうです。その後の青山荘の維持管理にも、地元の方の大変な協力がありました。

長い年月の間この場所には、いつも子供たちの笑顔と笑い声があふれていました。夏になると、生徒たちは臨海学校として青山荘を訪れ、みんなで食事をしたり、お風呂に入ったりするなど、数々の原体験が子どもたちの生きる力を育みました。

建物で最も特徴的なのは、生徒たちにも人気が高かった三角屋根の食堂です。無柱空間の開放感あふれる珍しい造りの食堂は、子供たちの枠にとられない想像力を養ってきました。

各部屋は回遊型の廊下でつながり、建物の中心部にある2箇所の中庭には柔らかな日差しが差し込み、心地よい潮風が吹き込んできます。外に出れば太平洋は目の前。五感を通して千倉の自然を感じる事ができました。

今でも卒業生の多くは、いい思い出の中に青山荘があります。

現在の建物が新築されたのは1972年（昭和49年）、2011年（平成23年）の東日本大震災をきっかけに、建物の老朽化・耐震等の問題もあり、臨海学校などの学校行事で使われなくなりました。

その後は青山会（東京学芸大学附属世田谷小学校PTA）が保有・運営していましたが、経済的にも運営の継続が厳しく、卒業生により寄付を集う活動もありましたが、最終的には閉鎖されることになりました。

青山荘はおよそ80年もの間、子供たちへ生きた学びを提供し続けました。



< 青山荘の歩み >

- 1929年（昭和4年） 青山荘開設
「青山荘のうた」ができる
- 1944年（昭和19年） 青山荘を閉鎖する
- 1950年（昭和25年） 青山荘を改修
臨海学校再開
- 1958年（昭和33年） 青山荘30周年記念行事
「青山荘音頭」ができる
- 1974年（昭和49年） 青山荘を新築する
- 1979年（昭和54年） 青山荘50周年記念行事
- 2011年（平成23年） 青山荘閉鎖

再生、そしてちくらつなぐホテルへ

青山荘は、2011 年度（平成 23 年度）に起こった東日本大震災を機に、建物の老朽化・耐震等の問題もあり、臨海学校などの学校行事で使われなくなりました。その後は青山会（東京学芸大学附属世田谷小学校PTA）が保有・運営していましたが、経済的にも運営の継続が厳しく、卒業生により寄付を集う活動もありましたが、最終的には閉鎖されることになりました。

外部売却の方針が決定してから、建物をできる限り残したいという学校関係者の想いもあり、譲渡先の選定には相応の時間を要していました。株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ代表の金子 岳人は、東京学芸大学附属世田谷小学校の卒業生であり、思い出の青山荘の再生への願いと、都心では味わう事の出来ない経験をさせてくれた小学校と千倉町への恩返しの想いもあり、この場所を宿泊施設として生まれ変わらせることを決意しました。

～金子の想い・青山荘のこれから～

卒業から約30年の時を経て、自分の長男が当時の自分と同じ小学生となったことがきっかけで、これからを生きる子供たちにも青山荘を使ってほしいと願ったことが、世代を超えて活用できるような施設にしたいという想いに繋がっています。青山荘再生のコンセプトは、千倉町に子供たちの笑い声を取り戻し、世代を超えて、仲間をはじめ多くの人が集えるハブとなる宿泊施設を創ることです。

再生するにあたり大切にしたのは、建物を存続させること。業者からは建物を解体し新築するほうが簡単だと言われてはいましたが、「これを自分がやらなければ、おそらく青山荘が活用されることはないだろう。それならば卒業生である自分の手で何とかして手じまいしたい。」そう強く思ったからです。そして、青山荘の歴史をつなぐべく、既存建物のコンバージョン（※）にこだわってきました。そのため、改修方法や耐震補強等、数多くの課題に直面し、計画通り工事を進めていく事は決して簡単なことではありませんでしたが、インテリアデザインなどを手がける株式会社アクタスや地元関係者の全面協力のもと、大規模な耐震補強工事を行い、青山荘の再生に向けた改修プロジェクトを経て、ついにホテルとして開業しました。

青山荘の新たな名称は「ちくらつなぐホテル」。世代を超えて親子が集い、千倉町に子供たちの笑い声を呼び戻すことを目指し、ちくらつなぐホテルは今夏オープンしました。不動産は多くの人々の手に触れ、活用されてこそ価値が磨かれ、生きるもの。だからこそ宿泊施設を通じて、地域との協業・協働により地域の活性化にも貢献していきたいと思います。また、南房総市とも協議を重ねており、雇用の促進や地域の一次生産者との連携等、地域でのリレーションを最大限構築し、地域を底上げできるような取り組みにも繋げていきたいと考えています。

青山荘の新たな歴史を刻むべく、「ちくらつなぐホテル」は様々なハードルを越えて、この夏、宿泊施設として再スタートいたしました。

（※）用途を変更し、全面的な改修を行うことで、新しい建物として再生させること

（文：株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ代表 金子 岳人）

青山荘の存続



白 このキャンペーンは終了しました
109人の賛同者が集まりました

学芸大学附属世田谷小学校、藤の実会、青山会 青山荘の存続

Facebookでシェア

発信者: Asahine Kazune 発信: 学芸大学附属世田谷小学校、藤の実会、青山会

震災により臨海学校としての利用が出来なくなったことが大きな要因として、今年度の予算が残り、先月3月をもって私達の思い出の青山荘は利用停止になってしまいました。今後はまだ八ヶ里とは決まっていますがこのままでは取り壊しも含め進んで行くとの事です。私はこの事に反対です。青山荘は100年近い歴史があり、卒業生もその時々に応じて在学中にお金を出して来ました。その意味でも在校生のPTAのみで閉鎖まで決めてしまえる話では無いと思い、賛成申し立てをさせてもらいます。寄付やOB会の立ち上げを含め、もっと多くの方々が知った上で本当に継続が無理かを今一度議論として取り上げて頂きたいと思っています。その為の署名を皆様から頂きたいと思います。よろしくお願い致します。



（写真提供：青山附属同窓会）



クラウドファンディングと地方創生の形

当社では、クラウドファンディングのプラットフォームを持つ株式会社ブリッジ・シー・キャピタルと組むことで、資金調達を行う予定です。今回のプロジェクトにはいくつかのトライアルがありますが、地方創生の壁となっている築古物件の改修工事に対する資金調達の手法としても、新たなマーケットを開拓していくつもりです。



地方創生プロジェクト！ 千葉県南房総市の元国立小学校保養所をリノベーションでホテル施設へ クラウドファンディングによるESG不動産投資 「第16号千倉ホテルファンド」を7月5日より募集開始

株式会社ブリッジ・シー・キャピタル（本社：東京都中央区、代表取締役：横田 大造、以下「当社」）は、運営する不動産投資クラウドファンディングサービス「CREAL（クリアール）」において、千葉県南房総市千倉町に所在する元国立小学校の保養所をフルリノベーションしたホテル施設「第16号千倉ホテルファンド」の投資申込を7月5日からクラウドファンディングで投資募集受付を開始いたします。地元のシンボリックな遊休不動産の再生を通じて、「人の流入」「雇用創出」を図る地方創生という意義を持ちつつも、投資家の皆様には安定的なリターンを提供するESG不動産投資*を「CREAL」で実現いたします。
※ESG不動産投資：人口減少や少子高齢化等の喫緊の諸課題の解決に寄与する、環境・社会・企業統治に配慮した不動産投資。

▼経済的リターンと社会的リターンの両立を実現する新しい資産運用のカタチ

「CREAL」ではこれまでに、インバウンド需要の増加に向けた「第1号浅草ホテルファンド」、待機児童問題解消に貢献する「第9号駒込保育所ファンド」など社会的に必要性が高く、また投資家にとっても堅実な投資リターンを提供できるファンドを展開してまいりました。今回、大型不動産案件第3弾といたしまして、高齢化に伴い過疎化が進行する千葉県南房総市千倉町に所在する、老朽化し運用されなくなったシンボリックな施設を「体験型新コンセプトホテル」へ再生することを通じて、地域の一次生産者との連携を深め、雇用の促進を図ることによる地方創生と、投資家の皆様には安定的なリターンを提供する投資採算性の確保を両立することを目指します。

▼「第16号千倉ホテルファンド」概要

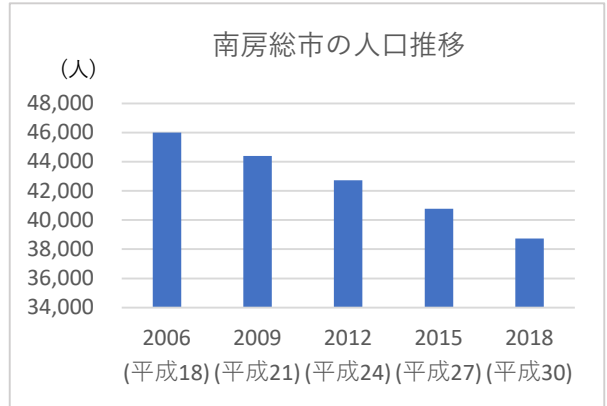
「第16号千倉ホテルファンド」は、自然豊かな千葉県南房総市千倉町に立地し、海まで徒歩1分の「家族で楽しめる宿」をコンセプトとしたホテルです。東京学芸大学附属世田谷小学校の保養所であった「青山荘（せいざんそう）」をフルリノベーションしたホテル施設であり、今回のリノベーションにあたっては、「ACTUS」に代表されるインテリアブランドを展開する株式会社アクタスの全面的な協力を得られており、同社の監修の下で施設全体の設計・デザインを行っております。

東京から車で2時間、豊かな里山、輝く海原、鮮やかな花畑、そんな多くの自然に囲まれた千倉町で、地域農家との農業体験、地引網などの漁業体験、そしてホテルの目の前に広がる海での親子サーフィン教室など、様々なアクティビティの機会を提供します。敷地内にはテント区画あり、キャンプファイヤーありと、家族で千倉町の豊かな自然を満喫しながら、ゆったりとお楽しみいただけます。テント区画エリアではペット連れのお客様もご宿泊いただけます。

- ・ファンド名: ちくらつなぐホテル
- ・募集金額: 23,760万円
- ・初回配当日: 2019年9月30日 ※以降毎月配当
- ・想定利回り(年利): 1年目（2019年8月1日～2020年7月31日）：4.0%
2年目（2020年8月1日～2021年7月31日）：6.0%
- ・最小投資口数: 1口(1万円)
- ・想定運用期間: 24ヶ月
- ・募集期間: 2019年7月5日 20:00～2019年7月11日 20:00

千葉県南房総市の現状と課題

ちくらつなぐホテルが位置する千倉町は、2006年町村合併により誕生した南房総市にあり、合併当初45,000人強であった域内人口は2018年11月時点で39,000人を切る水準となっています。南房総市は全域過疎地域に指定されており、生産年齢人口は千葉県平均61.3%に対して47.1%（県下ワースト2）、老年人口は千葉県平均26.4%に対して44.2%（同ワースト3）と厳しい実態が見て取れます。平均年齢は、千葉県平均46.2歳に対して、南房総市は55.9歳（同ワースト3）となっており、数字から見ても高齢化が顕著な南房総市は、土地面積が大きいこともあり、今後耕作放棄地が増加し、限界集落化していくことが懸念されています。



（参照データ：千葉県年齢別・町丁字別人口）

生産年齢人口（ワースト）

順位	市区町村名	割合
1	御宿町	43.9%
2	南房総市	47.1%
3	鋸南町	47.1%
4	大多喜町	50.9%
5	勝浦市	50.9%

老年人口（ワースト）

順位	市区町村名	割合
1	御宿町	49.4%
2	鋸南町	45.8%
3	南房総市	44.2%
4	勝浦市	41.7%
5	大多喜町	40.2%

平均年齢（高い順）

順位	市区町村名	平均年齢（歳）
1	御宿町	58.2
2	鋸南町	56.9
3	南房総市	55.9
4	長南町	55.0
5	勝浦市	54.5
5	大多喜町	54.5

（参照データ：千葉県公式サイト）

行政もUターンをはじめ、若い世代の受け入れには積極的ですが、そのためには雇用を創出する魅力的な受け皿が必要です。ちくらつなぐホテルでは、直接的な雇用による地域貢献といった側面もある一方、宿泊者と地域をつなぐことで、将来的なUターンに向けた機会の創出に貢献できればと考えています。豊かな自然が魅力の南房総市ではありますが、いきなりUターン希望者が来るほど容易なものではありません。より地域を知るといいう意味において、地域の人々に触れ、地域の暮らしが感じられるような宿泊体験は重要なステップになると考えており、ちくらつなぐホテルを通じて、地域と宿泊者をつなぐ様々な体験プログラムをご提供することで、将来Uターンに向けた取り組みにつながる可能性があると考えています。また、寡黙に一次産業に従事しているシニア世代と宿泊者の間で、体験プログラムをきっかけに継続的なコミュニケーションが生まれ、地域の活性化にもつながることを期待しています。

ちくらつなぐホテルは東京から約110kmの距離があり、房州の玄関口になる館山からは約15kmの距離があります。ちくらつなぐホテルが千倉町を訪れるきっかけとなり、地域として観光客を受け入れるという空気を醸成していきたいと考えています。

今回の取り組みは単なる不動産の再生にとどまらず、地方創生の取り組みと捉えています。青山荘再生という点ではなく、地域という面での底上げのため、地域の方々や行政との連携を図っていききたいと考えています。周辺の宿泊施設や飲食店との連携については、ともに地域のよさを伝え、観光客の裾野を広げる取り組みを推進していきたいと思ひます。

ちくらつなぐホテルが、千倉町の、南房総市の活性化に一石を投じる取り組みになると信じ、関係者一同、開業に向けて全力で取り組んでまいります。

【株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツについて】

当社は、ビジネスを通じて東京と地方の架け橋になりたいと考えています。投資ファンドを中心とした複数の投資家や金融機関とのリレーションを活かし、東京に集中する資金やノウハウ、情報を最大限に活用するため、東京にベースを置きながらも各地のプロジェクトをスピード感持って構築、展開しています。

当社では、ファイナンス力や不動産ノウハウを強みに、地方に画一的な箱モノを展開するのではなく、ストーリーがあるモノ、その地域の資産足り得るモノを宿泊施設として再生させていきたいと考えています。

宿泊施設をハブに、点ではなく、面で地域を底上げできるような仕組み作りを進めています。今回の「ちくらつなぐホテル」の取り組みは、当社の地方創生事業に対する試金石となります。

日本の地方には、素晴らしいけれど活用されていない資産がたくさん眠っています。人々の求める質が時代とともに変化する中で、自然豊かでその地域の暮らしを感じるような宿泊は、まさに今の時代が求めるものだと感じます。私たちはそんな体験のできる宿泊施設を提供したいと考えています。

現在、葉山にて御用邸の並び葉山公園至近にThe Canvas Hayama Parkというヴィラ3棟を運営しており、雑誌やテレビ等数多くの媒体でもご紹介いただいています。地方に向けて私たちができることは、まだまだあると感じています。地方に灯をともしための取り組みを1つずつ推し進めていきます。



The Canvas Hayama Park

1日3組限定、全棟ヴィラタイプのケーションレンタル型宿泊施設。

葉山に暮らす人々の安らぎの場所・葉山公園にほど近い閑静な地で「暮らすような滞在」をお過ごしいただけます。

【所在地】神奈川県三浦郡葉山町下山口1969

【開業日】2016年11月

【客室】3棟

【収容人数】15名(1室最大5名まで)

【公式サイト】<https://thecanvashotel.jp/>

【会社概要】

本社：東京都港区赤坂2-11-13 COMMON Akasaka 8F

代表者：金子 岳人

創業：2012年4月6日

資本金：5,000万円（2019年2月末時点）

TEL：03-6277-8217 / FAX：03-6277-8517

事業内容：金融アドバイザリー事業、不動産コンサルティング事業、投資事業

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ

鈴木 TEL:03-6277-8217

Mail:ksuzuki@bluesky-as.com